

タイトル「非日常の重さ」

登場人物一覧

武藤 紗英（二十四歳）

武藤 志穂（五十二歳） 紗英の母

富田 明葉（二十四歳） 紗英の友達

概要

二月の夜、強い地震が起こり、心配になった紗英は実家の母に電話で無事を確認した。その後、友達の明葉が泊まりに来た日の夜、母から普段よりも多く大量の缶詰やレトルト食品などが入った荷物が届き、疑問に思う。翌日の夜、紗英は母に電話で理由を尋ねた。先日の地震で一人暮らしの紗英が災害時の非常食を備蓄しているか心配になり、送ったとのこと。紗英はなんでもお見通しな母への感謝を感じつつ、通話を切るのだった。

SE…スマホの着信音、電話に出る

紗英 もしもし、お母さん？大丈夫？！

志穂 こんばんは。紗英ちゃんは、今お家？

紗英 うん。地震、そっち揺れ大きそうだったから

志穂 大丈夫、お父さんもおばあちゃんも無事。ひとまず今はみんなで車の中に避難してます

紗英 みんな無事で良かった

志穂 まだ二十二時だし、みんな寝る前だったから良かったのかもしれないね

紗英 そっか。二月だし、まだまだ寒いだろうし気を付けて

志穂 そうね。このタイミングで起こると、色々思い出しちゃうね

紗英 十年以上経っているのに、ね

紗英（M）それだけ時間が流れても、被災時

の大きな衝撃、視界の揺れ、不安は昨日の事のように鮮明に染みついでいて、色褪せることがない。

志穂 お風呂入った後で良かった。多分電気も水道も大丈夫だけど、この後はさすがに怖くて入れないから

紗英 また来るかもって考えちゃうよね

紗英（M）あの日には、それまでの人生で一番長い夜だった。次の揺れに怯えながら、寒さと静けさが身体に染み渡っていく。まるで永遠に夜が明けれることはないような、そんな不安。

志穂 もう遅いから、早く寝てね。こっちは大丈夫だから気を付けて

紗英 うん、ありがとう。お母さんたちも気を付けて

S E … 通話が切れる

紗英（M）じわじわと蘇る記憶の欠片たちから逃げるように、私は翌日の仕事に意識を向け、目を閉じた。

S E … 玄関のチャイム

紗英 あ、来たかな。待って、今開ける！

S E … ドアを開ける

明葉 こんばんは！これ、買ってきた。一緒に食べよ

紗英 明葉、いらっしやい！って、いきなりカツサンド？

明葉 久しぶりのお泊り会だよ？土曜、夜更かしし放題。泊めてもらおうし他にも色々買ってきた！

紗英　じゃあ、お言葉に甘えてご馳走になる
うかな。とりあえず、座って。お茶出
すから

明葉　ありがとー

S E ・玄関のチャイム

紗英　あれ、今度は誰だろ。(インターホンに
出つつ) あ、はい。今出ます

明葉　お客さん？

紗英　ううん、荷物届いたぽい。受け取って
くるね

明葉　いってらっしゃーい

紗英 (M) 誰からだろう、と思いつつ荷物を
受け取ると、それは実家からのも
のだった。

紗英　よいしょ、つと！

S E …かなり重い段ボールを置く

明葉 どうしたの、その荷物。めっちゃ重そう

紗英 実家からだった

明葉 ああ、そういう事。それにしても大き

いね、十キロはあるんじゃないの

紗英 そう！今回、いつもより明らかに大き

いし異様に重いんだよね

明葉 じゃあ普段はもう少し小さいんだ？

紗英 多分中身食べ物とかだと思うけど、急にどうしたんだろ

明葉 実家の漫画とか、そういう荷物送ってもらったんじゃないの？

紗英 うーん、頼んでないなあ

紗英（M）送って、と頼んだ覚えはなく。母は私の部屋に入って本棚を物色するよ
うな人でもない。

明葉 大量の缶詰見てたらお腹すいちゃった。

紗英、とりあえずご飯食べよ

紗英（M）不思議な疑問を抱えながら、明葉

が買ってきたカツサンドを緑茶で

流し込んだ。

SE…お風呂のドアを開ける音

明葉 はあ、さっぱりした。お風呂いただき

ました

紗英 おかえりー

SE…缶詰を積み上げる

明葉 わ、何この缶詰の塔。ツナ、焼き鳥、

鯖、鮭の水煮、かに……。今ってカレ

ーの缶詰もあるの？

紗英 こっちは米、おかゆ、ゼリー飲料、お

茶づけ他。変わりばえのないラインナ
ップだけど、明らかに量が多い……！

明葉 これ紗英の地元のお菓子？

紗英 そう、福島の。これも、いつも入ってるね

明葉 私も、徳島の実家から時々同じように食べ物送られてくるけど、食べたいって伝えてないのに入れてもらえると、嬉しいよね

紗英 うん。慣れ親しんでる味は、安心する

明葉 こういう実家からの荷物給料日前とかに届くと、救援物資だあ！って言って喜んでじゃう

紗英 あながち間違っていないかも。そうか、救援物資か……

明葉 あ、紗英は経験してるんだっけ、震災

紗英 うん。毎年三月は少し緊張感というか、やっぱり意識はするね

明葉 この間、紗英の地元方面で地震あったばっかりだし、心配になるよね

紗英 うん、さすがに電話した。みんな無事だったけど

明葉 そっか、それなら良かった。離れてる

分、安否の確認はしつかりしたいよね

紗英 あまり強いものじゃないときは、チャ

ット一言送る程度にしてたんだけどね

明葉 私の方も、近い将来南海トラフの影響

がっていう話はあるからなあ……

紗英 三月じゃなくなたって、いつ来てもおか

しくない、のにね

明葉 分かっているのに、つい忘れちゃう

紗英（M） この緊張感、意識を忘れないこ

と。精神的な備えも必要なのだ、

と実感する。

明葉 地震があると、まず何より離れてる家

族の顔が浮かぶ。私がそうってことは、

逆に実家の親も同じなのかな

紗英（M） 離れて暮らす家族。積み上がった

た非常食の量が、母の心配の重

みを表しているようだった。

SE…スマホの着信音、電話に出る

紗英 もしもし、お母さん？

志穂 紗英ちゃん、こんばんは。

紗英 さっきメールしたけど、荷物、昨日届いたよ！色々入れてくれて、ありがとう
う

志穂 ちゃんと、ご飯はしっかり食べてね

紗英 お母さん心配しすぎだよ。ありがたいけど、急にあんなに量詰め込んで、いったいどうしたの

志穂 そうだ、全部は食べずに、半分はとつておいてね

紗英 え、なんで？

志穂 今日、忘れた？あれから十二年よ

紗英 あ、そういう事……？

SE…地震のアラート音

紗英（M） 東日本大震災。両親とスーパーで
買い出し中、被災した。突然周りにいた人の携帯電話から同じ音が
一斉に鳴りだしたのだ。

志穂 あの時、なんとか家に帰ったけど。

買い物できなくて、家にあまり食べ物がなくて不安だったじゃない

紗英 うん。あそこが店を開けるらしい、なんて噂聞いて、必死だったもんね

紗英（M） 寒い朝、父と二人、件のスーパー
に向かい、同じ噂を聞きつけた
人々の列に並んだのを思い出す。

志穂 紗英ちゃん、一人暮らしでしょ。あの
時みたいな思いをしてほしくなくって

紗英（M） 店内から運ばれてくる限られた在

庫のパンやお菓子。手を伸ばし必
死で掴み取る人々。父と私は、他
の人も買えるように、と最低限の
分だけ購入し帰宅した。

志穂 食べ物が足りないかも、なんて思いな
がら過ごすの、不安だったじゃない

紗英 それに空腹が一番、メンタルに来ちゃ
うもんね

志穂 そう。それに紗英ちゃん、日頃から非
常食とかお家に置いてる？

紗英（M）さすが母、とでも言うべきか。私
の日頃の生活の様子など、バレバ
レだった。

紗英 お母さんは分かっちゃうんだね。やら
ないとなあ、なんて思ってるのに、つ
い買うのは今度で良いかあ、って……

志穂 やっぱり、予想通りだったのね。この

間の地震があつてから、思いついたの
で、今回お母さんから送ってみました。
今後はしっかり準備しておくように、
ね

紗英 はい、そうします

紗英（M）その後は、普段電話したときのよ
うな他愛ない近況報告が続き、日
常に戻った感覚になった。

志穂 じゃあ、もう遅いし。また電話するね

紗英 うん、おやすみなさい

SE…通話が切れる音

紗英（M）キッチンの端に積み上がった缶詰
の塔に向かって、私は静かに感謝
の言葉を口にした。